

会 議 録

会 議 名	令和8年度第1回東松山市幼児教育振興懇談会			
開 催 日 時	令和8年4月28日（火）	開 会	午後2時00分	
		閉 会	午後3時00分	
開 催 場 所	東松山市総合会館3階 301会議室			
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 令和8年度事業計画（案）及びテーマ（案）について (2) その他 4 閉会			
公開・非公開の別	公開	傍 聴 者 数	0人	
非公開の理由 （非公開の場合）				
参加者出欠状況	巢立 佳宏	欠席	小佐野 真紀	出席
	竹内 千鶴子	出席	峯 岩男	出席
	西條 宏実	出席	稲葉 昌弘	欠席
	狐塚 汐里	出席	内田 宏美	出席
事 務 局	教育委員会教育長 吉澤 勲		こども家庭部長 杉山 正剛	
	こども家庭部次長 加藤 勝子		保育課 課長 福島 智之	
	保育課 副課長 福田 潤		学校教育課 副主幹 岩岡 翼	

	顛	末
1 開 会	事務局	
2 あいさつ	東松山市教育委員会教育長 吉澤 勲	
	幼児教育振興懇談会参加者、事務局、自己紹介 座長選出 互選により峯岩男氏を選出 会議録署名人に小佐野真紀氏、竹内千鶴子氏を指名	
3 議 題	座 長 議題（１）の令和８年度事業計画（案）及びテーマ （案）について事務局から説明をお願いします。 事務局 （説明） 座 長 事業計画案ですので、順番にご意見を伺いたいと思いま す。 本日の懇談会については皆様ご承知のとおりです。 第１回幼保小三者連絡会は松山第一小学校、野本小学校で 開催し、日程は調整中です。 幼児教育研修会は日程調整済みで、講師は昨年と同じ東京 家政大学の佐藤康富先生をお願いします。テーマ案です が、「子どもが主体性を発揮できる保育・授業を考える～ 子どもが主体的に楽しめる活動と工夫～」としています。 このテーマを選んだ理由ですが、ここ数年、幼児教育と小 学校教育の接続が課題とされている時代と言えます。本来 であれば、小学校が大好き、と登校できる姿であるべきこ ども達が、前回の懇談会で西條先生から小学校へ行き渋る こどもがいると伺いました。これは、各小学校で大なり小 なり起きていることと思われます。もし、その行き渋りの 問題は幼保小接続の關係に起因しているのであれば、我々 も色々と見直していかなければならないですし、他の要因 があるならば、それを少しでも取り除きながら、問題を解 決するよう考えていかなければならないと思います。 そこで、今回のテーマ案は、こども一人ひとりが主人公と なれる学校生活が送れることが一番意義のあることと考 え、ここ数年それぞれのテーマで取り組んできた中で、こ れが最後のテーマになるのではと考えました。皆様いかが	

	<p>でしょうか。</p> <p>全 員 (特になし)</p> <p>座 長 では、このテーマで佐藤先生に依頼したいと思います。 第2回幼児教育振興懇談会は同日、研修会終了後に開催します。 第2回幼保小三者連絡会ですが、開催時期を小学校は5月から7月、幼稚園・保育園は翌年1月から2月としていますが、この経緯をたどりますと、小学校は入学後の夏頃までに、小学校生活をどのように送っているかを見たいという、送り出した幼稚園・保育園側からの意見がありこの時期になりました。幼稚園・保育園は園生活も安定し、小学校就学を控えた三学期の時期が良いであろうとの意見からこの時期になった経緯があります。今年度の会場園は、保育園はたかさか保育園、幼稚園は認定こども園高坂幼稚園に決まりました。 第3回幼児教育振興懇談会については記載の議題を予定し、日程は調整中です。 それでは、令和8年度事業計画(案)及びテーマ(案)については、皆様よろしいでしょうか。</p> <p>全 員 (異議なし)</p> <p>座 長 それでは、御承認いただいたということで、正式に(案)を消していただき、このような形で進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。 続いて議題(2)その他ですが、事務局から何かありますか。</p> <p>事務局 事務局からはございません。</p> <p>座 長 では、せっかくの機会ですので、皆様と意見交換をできたらと思います。 本日お配りしたものは、幼児教育とはこういうもの、幼保小接続に関して、あそびの中の学びとはこういうもの、と解説されている資料です。「あそび理解」に関して、中々理解してもらえないケースもありましたが、幼児教育は「あそび」を中</p>
--	---

	<p>心として主体的・対話的な深い学びに繋がっていくことで進んでいくものと書かれています。</p> <p>次に、小学校についてですが、就学したこども達が戸惑うことの一つとして、生活の変化です。この変化についていけないこども達が出てきている状況があります。これにあたっては、幼稚園・認定こども園・保育園において、主体的・対話的で深い学びが実践されているかが前提とならなければならないと考えますが、数多くある施設の中では、このような幼児教育を実践しているかどうか、やや疑問に思える所も実際にあります。学校側も、このような幼児教育が全ての園で行われているのならば、それを前提にスタートカリキュラムを作ることで、こども達がスムーズに学校生活を送れるのではないかと考えられます。</p> <p>幼児教育の中で、我々は元々二元化だった幼稚園・保育園の一元化を願ってきましたが、平成25年頃からそれが崩れてきて、幼稚園・認定こども園・保育園と三元化されてしまい、非常に分かりづらくなりました。例えば、保育園は保育所保育指針、認定こども園は幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園は幼稚園教育要領、この3つがあり、平成30年から新しい教育要領となったので、非常に混乱を招きましたが、我々関係者はこのことも理解しておく必要があります。</p> <p>そして、私立園の場合には、独自性が担保されていますが、各要領にやや整合しない方針を園の独自色としている所も見受けられます。そこで、私は敢えて申し上げたいのが、幼児教育の場合ですが、幼稚園・保育園の園長が、興味や関心、経験を重視するか、又は基礎学力を重視するか、皆様はどちらがふさわしいと思いますか。</p> <p>竹内氏 前者が良いと思います。小学校に上がって、高学年になると皆同じになってしまいます。やはり、</p>
--	---

	<p>今できることをやった方が良いと思います。子ども達を見ていると、それまで色々な取組をしてきているとは思いますが、同じになってしまうと感じています。</p> <p>座長 反対に、後者が良いと思う方はいらっしゃいますか。</p> <p>全員 (なし)</p> <p>座長 竹内先生がおっしゃるとおり、子どもの興味・関心、様々な経験を通して、そのプロセスの中で培う力を育ててほしいということが、幼児教育の命題となっています。基礎学力は、小学校に入ってからで良いのです。先取りする必要は無いのです。ややもすると、それを特色としている園が無いわけではないですが、本来は前者の方が幼児教育の質が高いと言われます。この質の高さについては、親には見抜けません。親の要望が強いと、基礎学力重視になってしまうので、幼児教育の現場に携わる者は、このこともしっかりと捉えておいていただきたいと思います。</p> <p>資料を見ますと、小学校学習指導要領解説には、「幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通じて育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるようにスタートカリキュラムを編成するように」と書かれているとありますので、これを尊重していただけるとありがたいです。そして、「幼児教育に求められているのは、平仮名や計算、英語の学習などをする小学校の前倒し指導ではなく、これまで通り幼児教育において大切にされてきた、子ども達の自発的なあそびを通じた総合的な指導なのです。」とあります。一方、小学校には、生活科を中心とした「合科的・関連的な指導」が求められているとあります。一つの大きな目標を立てて、その目標に関わる様々な教科を柔軟に組み合わせて指導することで、こ</p>
--	--

	<p>れまでの教科主義の概念を少し柔らかくした考え方ですが、これが学校や保護者に伝わって浸透していくには、相当な時間がかかると思います。なお、先進的な自治体では少しずつ始まっているとも聞いています。そして、「弾力的な時間割」については、45分間の時間を読み聞かせや図画工作、国語の時間を15分間ずつなど弾力的に組み合わせることができるものです。小学校でも活動やこどもの実態に合わせて教科を総合的に組み合わせられたら、こども達も幼稚園・保育園との違いへの戸惑いが少なくなるのではないかと思います。これらのことを踏まえてこの一年間、皆様と協議を進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>そして、2月に実施した幼保小三者連絡会の公開保育のアンケート結果を見ると、ようやく効果が出てきた、続けてきて良かったと思える感想が増えてきました。幼保小それぞれの先生方から、我々が意図するような記載が沢山ありましたので、これらを参考にしながら今後の研修テーマなどを考えていきたいと思っております。アンケートの希望テーマの記載を見ますと、幼稚園の先生12人のうち半分の6人、保育園の先生も数人、発達が気になる子への関わり方、その保護者との関わり方、こどもの発達の支援についてなど、発達についての記載が非常に多く見られました。内田先生、保育園ではそのような子は増えていますか。</p> <p>内田氏 実際、私の保育園でも入園後、成長と共にこども同士の関わりや対人関係が上手くいかない、自分の感情のコントロールが上手くいかないなど、特性があり個別に対応を要する子が年々増えてきているようにも感じています。</p> <p>座長 家庭での関わり方、親の養育態度によっても、このような子が増えてきている現実もあります。で</p>
--	---

すから、親にこどもとの接し方や養育態度を是正できるような関係が現場で構築できれば、改善されるこども達も現実にあります。また、保育現場で家庭の困りごとを聞くなどのコミュニケーションをとることによって改善するケースもあります。今後、発達障害の子、気になる子へ対応の研修会も考えていく必要があると思います。

内田先生がおっしゃった内容ですが、小学校の先生からも「小1プロブレム」(すぐにカッとなる、手が出る、感情のコントロールが苦手な児童)への対応といった希望テーマが挙げられています。幼児期ではまだ改善されず、小学校に持ち越している子が現実にいるということです。このような意見がアンケート結果にあり、なるほどと思う内容もたくさんありますので、これらを踏まえてこの一年の取組を進めていきたいと思います。

それから、以前に幼保小三者連絡会の内容について、学校全体で共通理解を図っていただいているかと質問したところ、西條先生から、自分の学校では全ての教員で共通理解を図っていると回答いただきました。これはとても大事なことで、先ほどの、園長がどんな思いで幼児教育を考えているかで質が変わることに通ずるもので、小学校においても必要なことを職員全体で共通理解を図ることが今後さらに求められていくと思います。なぜ、様々なこどもがいるのでしょうか。社会背景を考えますと、現在の世の中は多様化と言われ、色々な人がいる社会だからです。その多様化を受け止めて、時代に即して対応するのは大変なことですが、必要なことに取り組んでいかなければなりません。さて、皆様からはいかがですか。吉澤教育長、ご感想などをお聞かせいただけますか。

吉澤教育長

幼児教育の充実については、お話しいただいたと

	<p>おり遊びや様々な経験を通じて生活に必要な力を身に付けることや対人関係を築くこと、自然や文字・数字に対する興味関心・好奇心を高めることが、一番大事であると思っています。そのための主体的な活動である遊びを幼稚園・保育園の先生方が考えながら実践していただいていることを小学校の先生も理解に努め、こどもの興味を引きながら遊びの要素も取り入れて授業をしています。小学校と幼稚園・保育園の取組は全く違うわけではありませので、幼稚園・保育園の要素をどれだけ取り入れられるかという所が大事です。小学校の先生方には幼稚園・保育園の取組を沢山見てもらって、勉強していただけたら良いと思いますので、学校教育課の指導主事もこの懇談会に参加していますし、研修会にも沢山の先生が参加できたら、よりスムーズに小学校へ繋がっていくと思います。</p> <p>発達障害に関しては、峯先生からご紹介いただいた書籍を読みましたが、東松山でも取り組んでいる家庭での規則正しい生活「早寝早起き朝ごはん」で改善される部分があるのではないかと考えられましたので、これも絡めて取り組んでいく必要が小学校以降もあるのではと思いました。</p> <p>そのように色々なことを勉強できると良いと思いますので、ぜひ参加させていただきました。</p> <p>座長 教育長のその姿勢が、我々にとって本当にありがたいと思っています。これからもよろしくお願いします。</p> <p>それでは、これで全ての議事を終了しましたので、座長を下ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。</p>
4 閉 会	事務局

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和 8 年 5 月 25 日

署名委員 竹内 千鶴子

署名委員 小佐野 真紀